

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

胃癌取り扱い規約 第14版準拠による 「病理診断胃生検Group分類」変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、標記の「胃生検Group分類」ですが、本年3月に日本胃癌学会において胃癌取り扱い規約の改定が行われ、記載形式などにおいて変更が加えられました。

弊社もこれに則り、病理組織報告書の胃生検Group分類の表記法を変更致します。

急な変更により誠に恐縮ではございますが、ご了承を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

対象報告書

- 病理組織検査 胃生検報告書

実施期日

- 平成22年7月20日(火)受付日分より

なお変更後、暫くの間は旧分類および新分類の報告書が混在することが考えられます。新・旧分類の判別は表記法が算用数字またはローマ数字によるものかでご判断いただきますようお願い致します。

胃生検組織診断分類

変更内容

病理診断胃生検Group分類

1. 大腸生検Group分類と同様な考え方によるものとし、胃と大腸の生検組織における診断を同一の考え方に統一しました。
2. 分類表示を大腸の場合の表記と同様に、ローマ数字から算用数字に変更しました。
3. 判定基準が大幅に変更になりました。特に旧規約の”GroupⅡ”と新規約の“Group2”では解釈が大きく異なりますのでご注意ください。

新旧の比較

新Group分類と旧Group分類の対比表

	新規約(14版)	旧規約(13版)
生検組織診断ができない不適切材料	Group X	
正常組織、及び異型を示さない非腫瘍性病変	Group 1	Group I
異型を示すが、良性(非腫瘍性)と判定される病変	Group 1	Group II
腫瘍性(腺腫)か非腫瘍性か判断の困難な病変	Group 2	Group III
腫瘍性(癌)か非腫瘍性か判断の困難な病変	Group 2	Group III or IV
腺腫	Group 3	Group III
腫瘍と判断される病変のうち、癌が疑われる病変	Group 4	Group IV
癌	Group 5	Group V

【ご留意事項】

- * : 旧規約のGroupⅡは新規約ではGroup1となります。
- * : Group2は腫瘍か非腫瘍か判定困難な症例で、場合によっては腺腫や癌が含まれる可能性があります。所見に従って慎重にお取り扱いいただき、再生検をお勧めします。